

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	がっこうほうじんもりきょういっくがくえん おかやまがけいがんこうとうがっこう				②所在都道府県	岡山県
27～31	①学校名	学校法人森教育学園 岡山学芸館高等学校				県	
③対象	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
学科名	1年	2年	3年		計	岡山学芸館高等学校 計 1,236名	
普通科	235	235	235		705		
英語科	25	25	25		75		
⑥研究開発構想名	「グローバル社会に貢献できるリーダー育成のための研究開発」						
⑦研究開発の概要	<p>グローバル・マインド、問題解決能力、交渉型コミュニケーション能力、協働力、実践力を備えた「社会に貢献できるリーダー」の育成のための研究開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育と環境からの貧困悪循環の是正」をテーマにした課題研究の実施</li> <li>・国内・海外での貢献活動の実施</li> <li>・指導方法・学習環境の開発等のグローバル人材育成カリキュラムの完成</li> </ul>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標 本研究開発における課題研究での学習・研究やそれに伴う実践活動を通じて、以下の目標の達成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル・リーダーに必要となる5つの資質・能力を備えた生徒が増加する</li> <li>・高校卒業後も国内外の社会貢献活動に継続的に参加する意欲のある生徒が増加する。</li> <li>・グローバルな課題の研究に重点を置く大学へ進学する生徒が増加する。</li> <li>・新たな指導方法の実施や教育環境の開発などグローバル人材の育成のためのカリキュラムに取り組む教員が増加する</li> </ul> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説 現在、意欲の高い生徒を中心に国際理解や異文化交流活動、または社会貢献に対する関心や意欲、参加率は年々高まっているものの、依然一部の生徒に限られており、全校的な取組として捉えること難しい。また、「グローバル社会に貢献できるリーダー」に必要となる資質・能力の素養・修得という点でも課題が多いため、研究開発に対して以下の仮説を設ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①グローバルな諸課題についての背景理解など可能にするグローバル・マインドの養成</li> <li>②問題解決のための手法を学ぶ問題解決能力の修得</li> <li>③多様なツールによる発信活動を行う交渉型コミュニケーション能力の修得</li> <li>④協働による相乗効果を実感することを可能にする協働力の養成</li> <li>⑤自発的な問題解決を通し達成感を実感することを可能にする実践力の養成</li> </ol> <p>(3) 成果の普及 本校 SGH 研究開発における成果の普及として以下に挙げる取組を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①各年次における研究開発中間報告会及び3年次での<u>研究開発成果発表会の開催</u></li> <li>②学校ホームページ内に「<u>学芸館 SGH の取組</u>」並びに「<u>学芸館 SGH Blog</u>」の開設</li> <li>③課題研究の内容成果に関する<u>ワークショップ型出前授業の実施</u></li> <li>④文化祭や学校説明会等における研究開発に関する<u>研究発表会を実施</u></li> <li>⑤課題研究の内容・成果の普及を目的とした「<u>中国・四国 SGH フォーラム</u>」の企画・実施</li> <li>⑥公的機関との連携した「<u>貧困と社会貢献</u>」をテーマとした<u>セミナーの企画・実施</u></li> <li>⑦海外高校生との「<u>貧困と社会貢献</u>」をテーマにした<u>高校生フォーラムの企画・実施</u></li> </ol>					

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p><b>(1) 課題研究内容</b>        &lt;テーマ&gt;「開発途上国における貧困の悪循環是正に高校生ができること」を設定する。        &lt;課題研究の内容&gt;        (ア) <u>学校設定科目「グローバル課題研究Ⅰ～Ⅲ」</u>  <b>【1年次】</b> 開発途上国の貧困悪循環に関する研究（以下はテーマ一例）        ・「開発途上国における教育と貧困の因果関係」        ・「開発途上国における循環型社会の実現を阻む要因」  <b>【2年次】</b> カンボジアの貧困悪循環是正のための実践計画（以下はテーマ一例）        ・「カンボジアにおける教育機会拡大」        ・「カンボジア都市部におけるゴミ問題」  <b>【3年次】</b> 課題研究成果の振り返りと再策定、成果の普及（以下は活動一例）        ・ワークショップ型出前授業        ・海外高校生とのフォーラム開催        (イ) <u>貢献活動を計画・立案した、国内外のフィールドワーク（2年次）</u>（以下は活動一例）        ・カンボジアの学校教育における貢献活動（フィールド：カンボジア）        ・カンボジア学生の短期日本留学のための資金援助活動（フィールド：国内）        ・カンボジアの持続可能な開発のための貢献活動（フィールド：カンボジア）</p> <p><b>実施方法・検証評価</b>        (ア) <u>学校設定科目「グローバル課題研究Ⅰ～Ⅲ」（各年：週1回50分）</u>        連携先である岡山大学大学院教育学研究科、環境生命科学研究科の教授及び大学院生や、NPO法人ハート・オブ・ゴールドから講師を招き指導を仰ぐ。上記の様な課題テーマに対し、少人数グループで研究を行い、各年度の末にプレゼンテーション発表機会を設ける。        (イ) <u>貢献活動を計画・立案した、国内外のフィールドワーク（2年次）</u>        海外は、2年次の1月にカンボジアで7泊8日のフィールドワークを行う。参加生徒は、全体で80名程度を想定。「グローバル課題研究Ⅱ」で学び、立案した貢献活動計画を実践する機会として設定。        国内は、「45万円プロジェクト～カンボジアからの留学生受け入れのために～」と銘打ち、3人のカンボジア生徒受け入れの為の渡航費用・滞在費をカンボジア特産品等の販売活動で得ることを目的とした貢献活動計画を実践する。        検証評価としては、現地に貢献できているかを視点とした「現地でのアンケート」、「実践後のプレゼンテーション」から高大連携先教授と作成予定の評価項目から検証。</p> <p><b>必要となる教育課程の特例等</b>        1年次の普通科3コース（医進コース、スーパーVコース、特別進学コース）において、現代社会2単位のうち1単位を減じ、「グローバル課題研究Ⅰ」に代替する。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b>        ①「英語」 プレゼンやディスカッションなど様々な場面での英語交渉能力の修得        ②「国語」 テキスト読解を通じた論理的思考力・批評的思考力の修得        ③「世界史A」 「世界の中での日本」の考察を通じたグローバル・マインドの修得        ④「社会と情報」 ICTを用いた問題解決能力とコミュニケーション能力の向上</p> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b>        特になし</p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</b>        ・オーストラリア・カナダへの1ヵ年間留学及び短期語学留学        ・タイ・カンボジア研修旅行及び台湾研修        ・海外ASPnet校との交流        ・留学生及び海外訪問団の受け入れ        ・実践的かつ4技能総合的英語力向上の取組（GTEC、TOEFL、IELTSなど導入）</p>
<p>⑨ そ 他 特 記 事 項</p>	<p>英語科を対象に、平成26年度SGHアソシエイト校に指定を受け、グローバル人材育成事業に取り組んだ。</p>

ふりがな	がっこうほうじんもりきょういっくがくえん おかやまがくげいかんこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	学校法人森教育学園 岡山学芸館高等学校		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:							500 人
	SGH対象生徒以外:		431 人	432 人				200 人
目標設定の考え方: 本校実施の生徒状況調査によると年間複数回(2回以上)ボランティア活動などに参加する生徒は約35%である。そこで、SGH対象・非対象に関わらず、自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数の割合を年次5%ずつ向上させる。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:							250 人
	SGH対象生徒以外:		126 人	161 人				30 人
目標設定の考え方: 短期を含む留学又は海外研修に参加する生徒の割合を、SGH対象生徒に関しては年次2%、SGH対象外の生徒に関しては年次1%ずつ向上させる。ただし、各項目における人数は類加算せずに、年次毎の参加人数を記す。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:							75.0%
	SGH対象生徒以外:		50.1%	53.5%				30.0%
目標設定の考え方: 本校実施の生徒状況調査によると、全校生徒の内約53%の生徒が「将来、国際社会で活躍したい」と考えている。この割合を、SGH対象生徒に関しては年次2%、SGH対象外の生徒に関しては年次1%ずつ向上させる。ただし、各項目における人数は類加算せずに、年次毎の参加人数を記す。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:							100 人
	SGH対象生徒以外:		123 人	123 人				20 人
目標設定の考え方: 各種英語コンテスト、理数科の能力を問うコンテスト、スポーツ大会等における入賞者・受賞者の現状(在籍生徒の内約10%)を参考に目標人数を予想算出する。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:							25.0%
	SGH対象生徒以外:		11.0%	11.0%				1.0%
目標設定の考え方: CEFRのB1～B2レベルを英検2級～準1級・TOEFL57点取得者の英語運用レベルと仮定し、現状(英検2級在籍生徒の内約10%、準1級在籍生徒の内約1%)を参考に目標人数を予想算出する。								
(その他本構想における取組の達成目標)								
f	SGH対象生徒:							
	SGH対象生徒以外:							
目標設定の考え方:								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
------	------	------	------	------	------	------	-----------

国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合

a	SGH対象生徒:						20.0%
	SGH対象生徒以外:	7.8%	9.0%				0.50%

目標設定の考え方: 昨年度実績で第3学年生徒におけるスーパーグローバル大学等に進学している生徒の割合は7.8%であり、この数値を基に目標値を予想算出する。

海外大学へ進学する生徒の人数

b	SGH対象生徒:						20 人
	SGH対象生徒以外:	0 人	0 人				0 人

目標設定の考え方: 過去の実績より、海外大学へ進学する目標とする生徒の人数を予想算出する。

SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合

c	SGH対象生徒:						85.0%
	SGH対象生徒以外:	-	-				0.0%

目標設定の考え方: 高大連携による課題研究の研究内容により進学に対する目標設定が可能になると想定したうえで予想算出する。

大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数

d	SGH対象生徒:						80 人
	SGH対象生徒以外:	-	-				5 人

目標設定の考え方: 過去の実績より、大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の人数を予想算出する。

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	0人	0人						180人
	目標設定の考え方: 課題研究における1年次の海外視察、2年次の海外貢献活動の予定参加人数。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	0人	0人						180人
	目標設定の考え方: 課題研究における2年次の国内貢献活動の予定参加人数。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	0校	0校						7校
	目標設定の考え方: 現在姉妹校などの提携を結んでいる高校数を基に算出。課題研究の成果を踏まえ連携校の数を増やす。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	0回	0回						42回
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	0回	0回						20回
	目標設定の考え方:							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	75人	75人						180人
	目標設定の考え方: 模擬国連などのグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会への過去の参加実績を基に予想算出。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	102人	87人						130人
	目標設定の考え方: 帰国・外国人生徒の受入れの現状を基に予想算出。							
h	先進校としての研究発表回数							
	0回	0回						3回
	目標設定の考え方: 各学年の研究成果に関する中間発表会を合同で行い、3年次のみ研究成果発表会を実施する。							
i	外国語によるホームページの整備状況							
	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	△	△						○
	目標設定の考え方: 本校ホームページ及び国際教育センターのWebサイトの一部が英語・中国語で作成されているため。今後、全体の整備を行っていく。							
j	高校卒業後も国内外の社会貢献活動に継続的に参加する意欲のある生徒数							
	0人	0人						180人
	目標設定の考え方: 本研究開発での学習活動を通して、高校卒業後も国内外の社会貢献活動に継続的に参加する意欲のある生徒の人数。							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	1233	1236	1,211	1,163	1,155	1,155	1,155
SGH対象生徒数			265	530	795	795	795
SGH対象外生徒数			946	633	360	360	360